

90

^{99m}Tc-HMPAOを用いた脳血流シンチグラフィー — CT・IMPとの比較 —
 篠原功¹, 山川順子¹, 望月輝一¹, 久門良明²,
 村瀬研也³, 河村正³, 浜本研³, (愛媛県立今治
 放¹, 同 脳外², 愛媛大 放³)

^{99m}Tc-HMPAO (PAO) は局所脳血流を反映する新しい薬剤として注目されている。今回PAOとIMPをほぼ同時期に施行しえた10症例について、CTと合わせて比較検討した。PAOはIMPと同様脳血流低下域を明瞭に抽出したが、その範囲はCTに比して大きくIMPに比して小さな傾向がみられた。またRIND第2病日のPAOで、crossed cerebellar diaschisis が再分布した興味ある症例を経験したので合わせて報告する。

91

脳血流 Imaging 製剤 Tc-99m-HM-PAO に関する臨床的評価—脳血管障害患者での X 線 CT 所見との対比—

河中正裕、石村順治、末廣美津子、立花敬三、福地稔 (兵庫医大、核)

脳卒中患者 20 例を対象に Tc-99m-HM-PAO (以下 HM-PAO) による脳血流 Imaging の臨床的意義につき、SPECT 像と X 線 CT 像との比較で検討した。

症例は 34 才から 75 才 (平均 59 ± 11 才) で、男性 10 名、女性 10 名計 20 名で、内訳は脳出血 9 名、脳梗塞 9 名、小脳梗塞 1 名、橋出血 1 名で、罹病期間は発作後 1 ヶ月から 7 年であった。

方法は各患者に HM-PAO Q 37 ~ Q 74GBq (10 ~ 20 mCi) を静注投与し、15 分後の血流分布像につき、同時期の X 線 CT 像と比較した。その結果、CT 上頭頂葉～側頭葉の大脳皮質領域に低濃度域が認められた 8 例では全例で X 線 CT と同領域、またはそれ以上の範囲で血流低下が認められた。うち 3 例で crossed

cerebellar diaschisis が認められた。X 線 CT 上基底核～橋に病変がみとめられた 10 例中 7 例で X 線 CT と同じ部位の血流低下が認められたが、残る 3 例では認めえなかった。

以上の検討から本製剤は脳血流 Imaging に有用との結論をえた。